

保険・証券 (注)

1. 評価対象企業 (9 社)

かんぽ生命保険、SOMPOホールディングス、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、ソニーフィナンシャルホールディングス、第一生命ホールディングス、東京海上ホールディングス、T&Dホールディングス、大和証券グループ本社、野村ホールディングス

(証券コード協議会銘柄コード順)

(注) 本年度より、当業種を新たに評価対象業種とした。

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目 (注) 数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	35
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	12
計		21	100

(注) 評価項目の内容および配点は 122 頁参照

(2) 評価実施アナリストは 21 名 (19 社) である。(123 頁参照)

3. 評価結果

(1) 総括 (評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」(121 頁) 参照)

- ① 本年度の総合評価平均点は 74.1 点、総合評価点の標準偏差は 4.9 点であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、保険 (7 社：かんぽ生命保険、SOMPO ホールディングス、MS&AD インシュアランスグループホールディングス、ソニーフィナンシャルホールディングス、第一生命ホールディングス、東京海上ホールディングス、T&D ホールディングス) 74.4 点、証券 (2 社：大和証券グループ本社、野村ホールディングス) 73.3 点となった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率 (評価対象企業の平均点 / 配点 (以下省略)) を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 76%、**説明会等**が 75%、**フェア・ディスクロージャー**が 82%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 74%、**自主的情報開示**が 60%となり、**自主的情報開示**の分野が他の分野に比べて低水準となった。
- ④ 評価項目について見ると、全 21 項目中、**経営陣の IR 姿勢等**の 1 項目 ((c))、**説明会等**の 2 項目 ((d) (f))、**フェア・ディスクロージャー**の 4 項目 ((a) (b) (e) (g)) の合計 7 項目が平均得点率で 80%以上となった。
 - (a) 「英文による情報提供は迅速で、かつ日本語と同等の内容となっていますか」(平均得点率 91%) (得点率：100%1 社・90%8 社)
 - (b) 「ホーム・ページを利用して有用な情報提供 (過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況) を行っていますか」(平均得点率 87%) (得点率：90%台 5 社・80%台 4 社)

- (c) 「フェア・ディスクロージャー・ルール」の導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」(平均得点率 82%) (得点率：80%台 5 社・70%台 4 社)
- (d) 「決算補足説明資料の内容は必要十分ですか」(平均得点率 82%) (得点率：80%台 7 社・70%台 2 社)
- (e) 「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものです。短期、中長期での業績見通し上有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、説明会、ホーム・ページ上などで広く開示していますか」(平均得点率 81%) (得点率：80%台 6 社・70%台 3 社)
- (f) 「業界のベスト・プラクティスを適宜取り入れていますか」(平均得点率 80%) (得点率：90%1 社・80%台 5 社・70%台 2 社・60%台 1 社)
- (g) 「経営陣および IR 部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか(報道機関等への対応含む)」(平均得点率 80%) (得点率：80%台 5 社・70%台 4 社)

⑤ 一方、次の 2 項目は低い平均得点率となった。

- (h) 「有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか」(平均得点率 40%) (得点率：20%台 5 社・30%1 社)
- (i) 「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 56%) (得点率：30%台 3 社(損保)・40%台 1 社・50%2 社)

⑥ なお、本年度新設した下記 2 項目については、次のとおりとなった。

- (j) 「フェア・ディスクロージャー・ルール」の導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」(平均得点率 82%) (得点率：80%台 5 社・70%台 4 社) (④ (c) 参照)
- (k) 「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報(ESG 情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 75%) (得点率：80%台 4 社・70%台 3 社・60%台 2 社)

⑦ また、決算発表集中の改善を求める声、説明会のライブ配信や説明会資料の早期アップロードが未対応の企業に対し改善を求める声、決算発表や大型 M&A 公表までの期間の情報管理(報道機関等への対応含む)のさらなる徹底を求める声、四半期決算の補足資料(エクセルシート形式)の充実を求める声があった。

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 東京海上ホールディングス(ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 81.5 点)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 86%)、フェア・ディスクロージャー(85%)、コーポレート・ガバナンス関連(83%)、自主的情報開示(76%)が第 1 位、説明会等が第 2 位(78%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが株価への意識を高め、決算説明会等において、理念、思考、戦略、施策などを丁寧に説明していることや、投資家・アナリストと対話する機会を積極的に持っていることなど、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門に十分な情報が集積されており、経営方針を適切に説明できることから、IR 担当者とは有益なディスカッションができることなど、同部門の機能も高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルール」の導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」についても同得点第 1 位となり、この分野の評価項目全てにおいて第 1 位となった。
- ③ 説明会等においては、経営情報を分かりやすくするように公表財務情報を組み替えたりするなど、説明資料の開示について高く評価された。なお、リスクポートフォリオ、海外子会社の収益構造に係る開示充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢を始め、ホーム・ページにおける情報提供、英文による情報提供について高く評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について進捗状況、経営陣としての目的などが十分に説明されていることが評価された。また、資本政策、株主還元方針について十

分に説明されていることや、中・長期経営計画で掲げた経営指標について進捗状況・達成のための具体的方策が説明されていることも評価され、この分野全体について評価された。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「海外事業説明会」「自動運転技術を見据えたセミナー」などの開催や、有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていることが評価された。また、「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」についても同得点第 2 位に評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 SOMPOホールディングス（総合評価点 77.9 点）

- ① 同社は、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 2 位（81%）、**経営陣の IR 姿勢等**（79%）、**自主的情報開示**（72%）が第 3 位、**説明会等**が同得点第 3 位（77%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 6 位（82%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門において、十分な情報が集積されているほか、経営トップの姿勢をサポートし、情報発信を行っていることから、有益なディスカッションができると評価された。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が、同得点第 1 位と高い評価となった。なお、投資家・アナリストの意見に耳を傾け、改善しようとする経営トップの姿勢や、事業の説明が明快である点を評価する一方で、潜在的なリスクについての開示に課題があるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、インタビューにおける分かりやすい開示、決算補足情報の豊富なデータ開示が評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、ホーム・ページにおける情報提供、英文による情報提供について評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、資本政策、株主還元策について十分に説明されていることや、中・長期経営計画で掲げた経営指標について進捗状況・達成のための具体的方策が説明されていることも評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が、同得点第 2 位であった。

第 3 位 MS&ADインシュアランスグループホールディングス（総合評価点 76.9 点）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第 2 位（75%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 3 位（78%）、**説明会等**が同得点第 3 位（77%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 4 位（76%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 8 位（80%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、会社にとっての経営課題（例えば、海外部門の立て直し）について、その課題を自覚し、その改善施策を積極的に説明するなど前向きな変化が見られることや、IR 部門への情報集積が徐々に進んでいることが評価された。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が、第 3 位となった。なお、市場の評価改善に向け、より資本効率を意識した IR に期待するとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、アナリスト・投資家の意見および業界のベストプラクティスを取り入れ、開示内容、手法の改善を図っていることや、海外子会社の開示充実が評価された。なお、海外事業での潜在的リスクの迅速な説明を望む声があった。
- ④ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、中・長期経営計画で掲げた経営指標について進捗状況・達成のための具体的方策が説明されていることが評価された。
- ⑤ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が、第 1 位となった。なお、自然災害のリスク量の開示、地域・事業セグメント単位での損益、補足データ類の充実や、海外子会社の責任者をスピーカーとする事業説明会の開催を望む声があった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 第一生命ホールディングス（総合評価点 76.0 点、第 4 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（80%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（83%）、自主的情報開示が第 4 位（63%）、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第 4 位（75%）、説明会等が第 5 位（76%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップの IR 活動への積極的な関与姿勢に加えて、説明会等における経営戦略や資本政策などの合理的な説明など、経営陣の IR 姿勢が評価された。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 4 位となった。
- ③ なお、生保業界内の比較において、上記「経営陣の IR 姿勢」に加え、「IR 部門の機能」と「事業部門の説明会の開催」が高く評価された。

○ 大和証券グループ本社（総合評価点 75.0 点、第 5 位）

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（79%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（83%）、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第 4 位（75%）、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位（75%）、自主的情報開示が第 6 位（56%）となった。
- ② 説明会等においては、迅速な決算発表が最も高く評価され、この分野において第 1 位となった。
- ③ なお、IR 部門の機能強化に対する取組を評価する声があった。

以 上

2018年度 ディスクロージャー評価比較総括表（保険・証券）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目4 (配点25点)		2. 説明会・インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7 (配点35点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目4 (配点12点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3 (配点16点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3 (配点12点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	8766 東京海上ホールディングス	81.5	21.5	1	27.4	2	10.2	1	13.3	1	9.1	1
2	8630 SOMPOホールディングス	77.9	19.8	3	26.8	3	9.8	6	12.9	2	8.6	3
3	8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	76.9	19.1	4	26.8	3	9.6	8	12.4	3	9.0	2
4	8750 第一生命ホールディングス	76.0	19.9	2	26.5	5	10.0	2	12.0	4	7.6	4
5	8601 大和証券グループ本社	75.0	18.8	5	27.5	1	10.0	2	12.0	4	6.7	6
6	8795 T&Dホールディングス	73.2	18.6	6	26.5	5	9.9	5	11.9	6	6.3	7
7	8604 野村ホールディングス	71.6	18.0	7	25.3	8	10.0	2	11.2	7	7.1	5
8	8729 ソニーフィナンシャルホールディングス	70.2	18.0	7	25.6	7	9.7	7	10.7	8	6.2	8
9	7181 かんぽ生命保険	64.8	16.9	9	23.1	9	9.6	8	10.6	9	4.6	9
	評価対象企業評価平均点	74.12	18.96		26.16		9.86		11.89		7.25	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、4.9点であった。

2018年度評価項目および配点（保険・証券）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (25点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが株価への意識を高め、決算説明会等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	7
(3) IRの基本スタンス	
① フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	4
② 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (35点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	7
② 事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）開示が十分になされていますか。	7
③ 主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
④ 決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	6
(2) 説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
① 決算補足説明資料の内容は必要十分ですか。	4
② 業界のベスト・プラクティスを適宜取り入れていますか。	3
(3) 決算発表日	
・ 決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (12点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
① 経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか（報道機関等への対応含む）。	6
② 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。短期、中長期での業績見通し上有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、説明会、ホーム・ページ上などで広く開示していますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を行っていますか。	2
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は迅速で、かつ日本語と同等の内容となっていますか。	1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (16点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明がなされていますか。	6
(2) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策（リスク量の開示を含む）、株主還元方針が十分に説明されていますか。	5
(3) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画（ROEの他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他のKPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
① 決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していますか。〔過去1年間を目安に評価〕	8
② 統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	2
③ 有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。	2

保険・証券専門部会委員

部会長	伴 英康	CLSA 証券会社
部会長代理	村木 正雄	ドイツ証券
	伊勢 和正	アセットマネジメント One
	大塚 亘	野村証券
	□野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	丹羽 孝一	シティグループ証券
	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント

評価実施アナリスト（21名）

石井 宏	三菱 UFJ 国際投信	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
伊勢 和正	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ証券
岩下 暢道	大和住銀投信投資顧問	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
大塚 亘	野村証券	伴 英康	CLSA 証券
川縁 直樹	大和住銀投信投資顧問	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
斎藤 佳奈	三井住友信託銀行	水野 年章	農林中金全共連アセットマネジメント
佐藤 耕喜	みずほ証券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
□野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	村木 正雄	ドイツ証券
中村 真一郎	SMBC 日興証券	簗谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
永本 成克	MU 投資顧問	渡辺 和樹	大和証券
成松 ともみ	SMBC 日興証券		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。